

次のA・Bの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A

ある日きつねぶだうはたけに入り、赤く熟せしぶだうの高き柵よりすゞなりにさがりたるを見て、
多く群がって

これはうまさうじやと、したうちをしてほめたて、幾度となく躍上り踊上りたれどもとどかず。そ

おいしそう

舌つづみ

こできつねがはらをたつて、「ヨシ。なんだこんなものを。ぶだうはすッばいぞ」

腹を立てて

なんでも手前勝手なものじゃ。自分の思ふ様になればほめる。ならねばそしる。こゝが情の私

自分勝手

非難する

自分の利益だ

とするとこゝろじやゆる常に戒めねばならぬぞ。
自分を言い聞かせなければならぬ。

けを追求する

『通俗伊蘇普物語』による

B

王戎、七歳のとき、かつて諸小児と遊び、道辺の李樹、子多くして枝を折れるをみる。諸児
人名 以前に 子どもたち 道端のスモモの木 実 枝が折れ曲がっている 子ども達

競ひ走りてこれを取るも、ただ戎のみ動かず。人これを問へば、答へていはく、「樹、道辺に在りて

王戎

子多し、これ必ず苦李ならん」と。これを取ればまことにしかり。

苦いスモモだろう

本当に

そのとおりであった

『世説新語』による

- (1) Aの文章は「酸っぱい葡萄^{ぶどう}」という、「負け惜しみ^お、やせ我慢^{がまん}のたとえ」で使われる故事・ことわざの元となった西洋の話です。何という物語の一節ですか。物語のなまえを書きなさい。

答え

- (2) 次に示す「例」のように、あなたの身近に起きそうな「酸っぱい葡萄」のエピソードを一つ作りなさい。

「例」新作のゲームソフトが欲しかったが、おこづかいが足りなくて買えなかった。先にゲームソフトを買った友だちに「そのゲームは面白くないから買わない」と負け惜しみを言ってしまった。

答え

- (3) Bの文章は「道傍苦李（どうぼうのくり）」という四字熟語の元となった中国の話です。「道端の苦い李の実」を表した四字熟語の意味として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号を書きなさい。

- ア 物事を自分の都合のよいように計ることのたとえ。
- イ とても高価でほとんど手に入らないもののたとえ。
- ウ 普通の人には利用価値がわからないことのたとえ。
- エ 人に見捨てられて見向きもされないもののたとえ。

答え

(1)
《解答》

イソップ物語

(2)
《解答》

(省略。「例」を参考にエピソードを一つ作る。)

《評価のポイント》

- A 「欲しいものがある」↓「手に入らない」↓「負け惜しみ」という文章構成であり、かつ一貫性のある整った表現で書かれている。
- B 「欲しいものがある」↓「手に入らない」↓「負け惜しみ」という文章構成で書かれている。
- C 「負け惜しみ」に関するエピソードが書かれている。

(3)
《解答》

エ